

第8回幼児教育実践学会

2017年8月19日

口頭発表

「いいことみつけた」
主体的な表現活動と感性の育ち
～子どもと保育者と共に学び合う保育～

学校法人 いずみ学園 いずみ幼稚園
草間妙子

チームいずみ

(井上晶子 宮尾初子 池田美加 白石妙子)

①園の概要とあゆみ

研修と保育実践の中で目指してきたもの

②子どもたちの感性を引き出す表現活動の実践と事例

育ちのみとり、共有、支援の在り方を探る

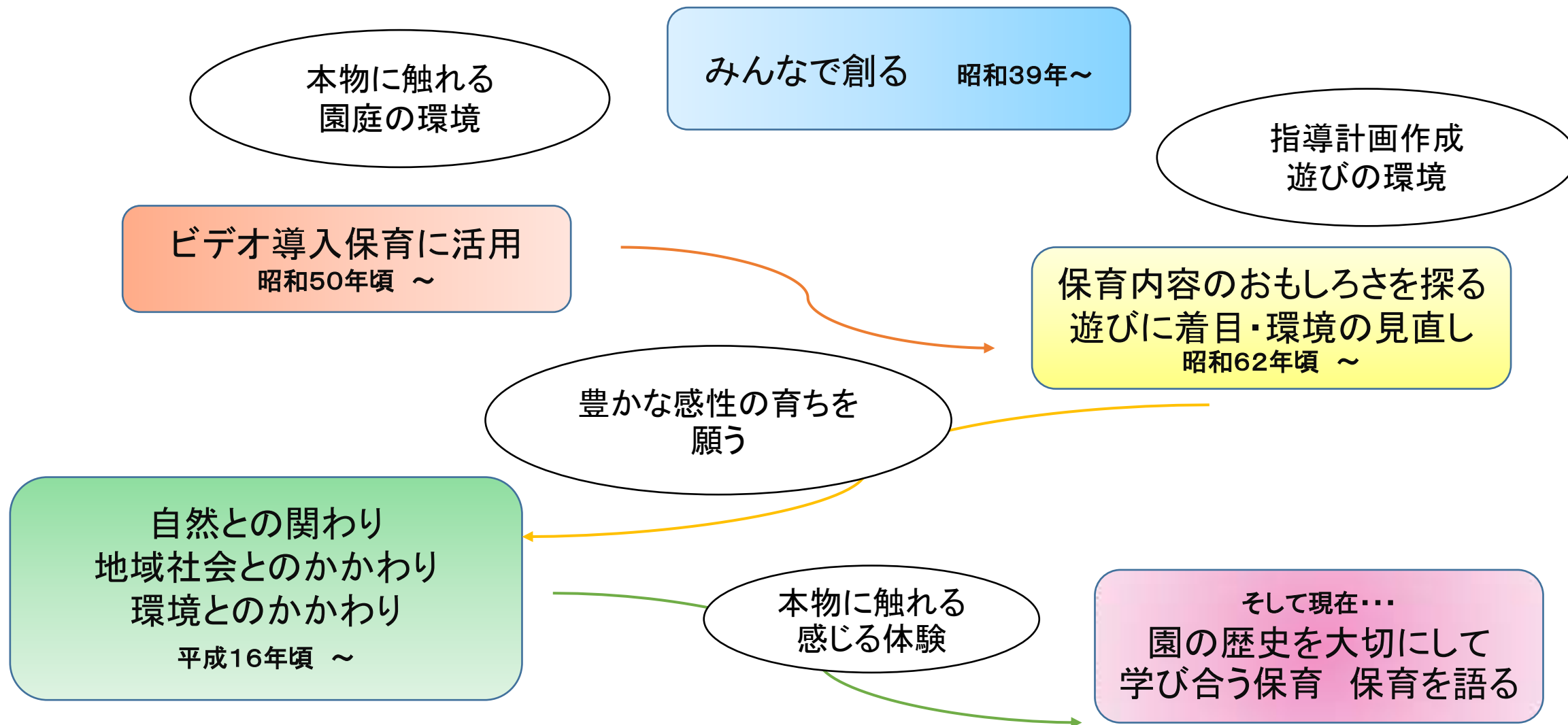
③今後の研修と保育者の資質・能力の育成とは

①園の概要

園庭の遊びの中にも
子どもたちの
素朴な表現がある



あゆみ・・・研修 保育実践の中で目指してきたもの



モットー 「きょうもたのしいようちえん」

大好きな砂遊びには
感じる体験が
つまっている



運動

リズム

豊かな
感性

食育

考える
力

表現活動の園内研修

とにかく 実践

得意分野を磨き、遊びや活動の内容を高める

クリエイティブムーブメントを学ぶ

保育内容の自園の理念について理解を深める

- ・自ら遊びを工夫したり協同して遊びを作り出す環境
- ・子どもと保育者と共に創る楽しさ

教育実習生受け入れの中で現場教諭の学び

園独自に研修する機会を設定し、主に表現活動について
研修旅行や外部より講師を招いて教材研究

- ・教師一人一人が教材研究の重要性を感じる
- ・地域とのかかわりを大切にし、地域へ出かけ人々に触れる、
社会の仕組みに気付く、地域の自然探検など教師も共に
子どもたちと発見し感じ、伝え合うことの大切さを学ぶ

幼稚園教諭免許更新制度の研修、
経験者研修から、

それぞれに学びの方向を探る

チームいずみ幼稚園として教職員が伝え合うこと
支え合うことの大切さを共通理解する

② 子どもたちの感性を引き出す表現活動の 実践と事例



音楽に親しむ
歌う リトミック
リングベル合奏
ラテン楽器 打楽器など

事例 ①

感じる心

自然と関わる

発見や喜び
心地よさ



わくわくどきどきみつけたよ

- ・身近な自然とかかわり発見を楽しんだり、
試したり考えたりする
- ・子どもを肯定的に見とる力を高めていく
- ・日々の姿に子どもの成長を感じ、保護者と喜び合う



— 地域にでかける —

「ポチャッ、おもしろい音ができるね」

(満3歳児)

出会い
ふれあい
感じる



わくわくドキドキする心は、
それを伝え合うことでより
膨らんでいく

「石けんさんて、やっぱり強いんだね」



「ポカポカだね」



事例 ② イメージの世界を楽しむ



造形活動研修

上越教育大学 洞谷亜里沙先生をお招きして

「表現」……自分の気に入ったものから感じた「こと」や「もの」を
自分なりに表すこと。

- * 気に入ったものをよく見て観察し、どこが魅力的なのか
とことん形と色の写実に徹する。
- * 対象物から自分が感じた新しい美の世界を構成する
- * いろいろな技法を使って、自分が感じた自由なイメージを表現する。

心の表現

- * リアル ファンタジー 幻想的 抒情的

先生たち自身が夢中になって活動し
自分を見つめる自分を知る時間になった。



「すてきな自分」をつくろう

～制作活動より～

3歳児

- ・顔の表情や特徴について友達や先生と話し合い、楽しい時の目や口の動き、鼻の形を考えながら、工夫して作る
- ・いろいろな素材を組み合わせたたり、切ったり貼ったりしながら、髪の毛や服の装飾など出来上がっていく楽しさや驚きを味わう

～ 8年目経験者研修 ～

子どもと共に育つ保育者の学び

- ・ もう少し教材研究を深めるべきであった。
- ・ 一つ一つ形が変化していく中で想像力を働かせて、いろいろな物に例えてみたり(見立て)そこから 広がるイメージの世界を楽しむ言葉がけをし、みんなでその時々を楽しむと もっと表現に面白さがでてくるのではと思った。
- ・ 使う素材によっては、並べる 曲げる 通す 巻きつけるなどといった手先の使い方いろいろで、とても良い経験になると思った。
- ・ 髪の毛の色は黒や茶色がいいのではという思いから視野が狭くなりがちだったが、いろいろな色や形の素材があった方が作る楽しさが広がると他教諭と話し合った。自分自身のイメージを広げることができ、気持ちが軽くなり、もう少し頭を柔軟にして考える必要があったと反省した。

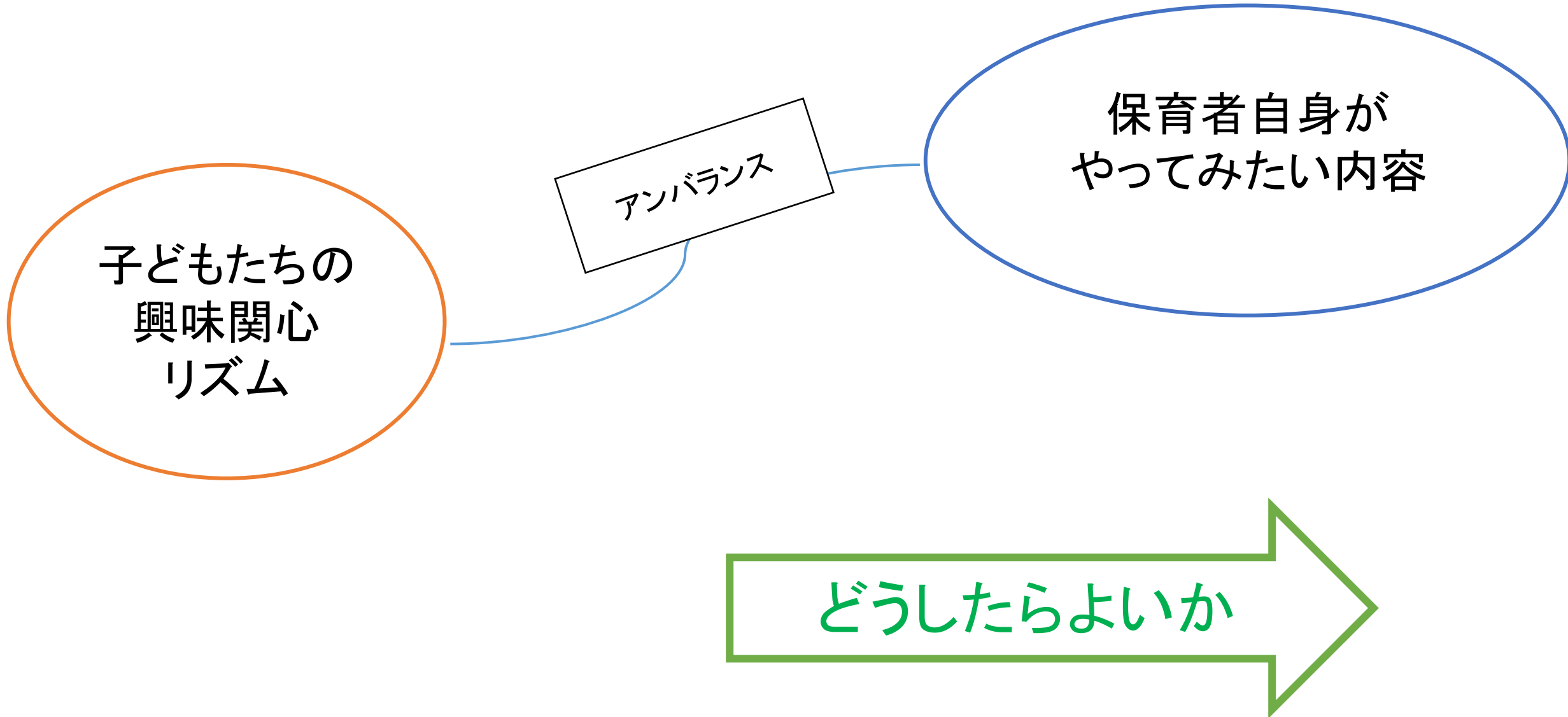
事例 ③

創作ミュージカル

「ダチョウのエルフと仲間たち」



活動に至った経緯



* 年長児の協同性 のびのびと表現する力

考え工夫する力

認めてもらいたい
欲求

励まし合い高め合う

表現したい意欲・高まり

仲間と一緒に演じる喜び

保護者に伝えたいこと

子どもたちと先生のかかわり(一人一人の表現を引き出す)
子どもと共に感動する喜び
演じる仲間

まことの保育研修会で出会った歌

子どもたちの元気な姿、親の気持ち、
大切ないのち、いろいろな思いを感じる

ぼくがここに生まれて

山崎浩 作詞作曲

ぼくがここに生まれてきたことは
あたり前のことじゃなく
たくさんの『ふしぎ』がたすけてくれた
おかげなんだ
きみがここに生まれてきたことも
あたり前のことじゃなく
たくさんのいのちがリレーを続けた
おかげなんだ
今を生きるぼくを 支えてる見えないちから
ありがとう 今さげぶよ
ぼくは空にさげぶよ

みんながここで笑っていることも
あたり前のことじゃなく
たくさんの『奇跡(きせき)』が重なりあって
出会えたんだ
明日を生きるぼくを みちびくよ輝く光
ありがとう 今うたうよ
ぼくは風にうたうよ
今を生きるぼくを 支えてる見えないちから
ありがとう 今さげぶよ
ぼくは空にさげぶよ
ぼくは空にさげぶよ

気になる子 支援を必要とする子の育ち

- ・安定した情緒でなりきって演じる T男
- ・自分でやると気持ちを切り替えていった M子
- ・みんなと一緒に活動した S男
- ・先生や友達の支えに笑みがこぼれた H子

仲間を思いやる心の育ち

この活動を通して・・・

心地よさ

安定した情緒 やりたい気持ち

みんなの中で自己を発揮していく

強さってなんだろう

自分を待っててくれる仲間がいる

周囲との関わりの中で豊かなものになっていく

やりきった時の喜び

題材の面白さ

仲間を思いやる

コミュニケーション

表現する楽しさ

心にひびく歌

自分なりの表現



子どもたちの心に響く活動を



保護者の気づき

「みどりの朝に〜♪」朝から夜布団に入るまで何十回もこの歌をうたい、踊っていて

「たのしくてたまらない。体が勝手に動いちゃうんだ」と言っていました。家族もうっかり？勝手に？

身振りにでてしまいます。年少の時から小童だったライオンの役も本人はとても

気に入っています。鏡や窓ガラスに自分の姿をうつして、自分や友達の様子や動きを

やってみたり、その日の練習の様子を話したりして毎日が本当にキラキラしていました。

ミュージカルの役決めの際、二つの役で選びきれず、話を聞くと、今の役はたけ組には、自分とお友達だけの二人。もし自分が本当にやりたい役をしたらそのお友達が一人になってしまうと、悩んでいたとの事。後日、先生より他の組にもそのお友達と同じ役をやるお子さんがいると聞き、安心して自分のやりたい役を選んだと本人から聞き、良かったと思いました。年長になり、自分の事やお友達とのかかわりなど、ひとつ、ひとつ成長していると感じました。

家に以前から「カニあしでぶらぶらのエルフ」の絵本があったので

このミュージカルに行くに当たり、また絵本を^読み返してみました。

「絵本はこうだけどミュージカルは違うよ」など話していました。

「この場面は楽しい雰囲気のリズムなんだよねー」

「最後の歌は^{お母さんは}「サシ^{たし}感動するかもよ」など言っています。

③ 今後の研修と保育者の資質・能力の育成とは

・エピソード記述の取り組みから

保育者が自身の保育を見つめ直す
創造的な働きかけ
遊びの充実・学び
幼児理解

遊びの中に素朴な表現がある
幼児のあるがままを認め、
自分なりの表現を大切に。

・保育者一人一人の能力・感性を理解し寄り添って

保育者が自身を理解し、何を学んでいくか 専門性を高めていく方法

お迎えに来られたお母さんは園庭でお子さんと一緒に、いい顔で親子の時間を過ごしています。子どもたちの元気に動き回る姿に成長を感じ、お母さん同士でも話がはずみます。



これからも

「きょうもたのしいようちえん」を

目指していきます。

